

## 調査の概要

### 1 調査の目的

本会では、1985年に「病院における訪問看護の実施状況調査」を行い、調査結果は、社会保険診療報酬における訪問看護料金の新設や枠の拡大を求める資料として活用した。その後訪問看護関係の料金は、いくつかの改善がみられ、その結果訪問看護を実施する医療機関は増加した。そこで、1985年以降6年間の変化、現状における問題点と今後の課題を明らかにするため、改めて調査を行った。さらに訪問看護実施病院の名簿を作成することを意図した。

### 2 調査対象

日本看護協会支部を通して把握された、訪問看護を実施している（と見込まれた）病院、2,063。

### 3 調査方法

郵送、自計式。調査票の宛先は総婦長、記入者は実際に訪問看護を担当している人。

### 4 調査の時期

1991年1月現在の状況について回答を求めた。

### 5 調査票回収状況

回収数1,331（回収率64.5%）。その内訳は次のとおり。

- |   |     |
|---|-----|
| 1) 自病院所属の看護職が業務として（勤務時間内に、または残業扱いで）訪問看護を行っている<br>.....  | 886 |
| 2) 何らかの訪問看護を行っている（「ボランティアとして」、「特殊ケースのみ」、「試みとして」、「事例研究として」、「学生の教育実習の一環として」など）、または訪問看護は他の機関に依頼している..... | 165 |
| 3) 訪問看護は行っていない.....   | 248 |
| 4) 不明.....  | 32  |

この報告書では1)の886病院を集計・分析の対象とした。集計対象となった調査票は、配布票の42.9%、回収票の66.6%である。

## 6 調査の担当

調査の企画・実施は、WHO指定研究プロジェクトで行い、報告書作成は、調査研究室（分析・執筆は岩下清子、集計は林幸範）が担当した。

注1) この調査は、WHO指定研究「日本における訪問看護の実態と展望」の一環として行われたもの。

研究プロジェクトメンバーは次のとおり。

嶋崎佐智子（日本看護協会）、季羽倭文子（ホスピスケア研究会）、島内節（東京医科歯科大学）、矢野正子（厚生省）、大野絢子（厚生省）、野村陽子（厚生省）、丸山美知子（厚生省）、内田恵美子（日本看護協会）、佐藤恵美子（日本看護協会）、岩下清子（日本看護協会）。

注2) 本報告で比較のために用いられた1985年調査の調査概要は次のとおり。

調査対象；全病院を対象とする予備調査などで把握された訪問看護を実施している（と見込まれた）病院597。

調査方法；調査票郵送，自計式。

調査の時期；1985年6月。

回収状況；回収数369（回収率66.3%），うち有効回収数321（回収率46.1%）。無効票のほとんどは，訪問看護を「実施していない」，「まだ試みの段階」などの理由で無回答のまま返送されたもの。

この調査の報告書；「昭和60年病院における訪問看護の実施状況調査」、『日本看護協会調査研究報告No.22』，日本看護協会，1986年6月

# 病院における訪問看護実態調査

## 総婦長殿

1991年1月  
社団法人 日本看護協会

日本看護協会では、1985年に病院における訪問看護の実施状況調査を行い、調査結果は、社会保険診療報酬における訪問看護関係の料金の新設や枠の拡大を求める資料として、活用させていただきました。

その後訪問看護関係の料金については、いくつかの改善がみられ、その結果、訪問看護を実施する医療施設も増加してきたようです。そこで、改めて訪問看護の実態を把握し、一層訪問看護を実施しやすい状況を作る努力を続けたいと考えています。

なお、本会では、このたびWHOの助成金を得て、日本の訪問看護の実態と問題点、今後の課題を明らかにするための研究を実施することになりました。この調査は、その研究の一環として行なわれます。

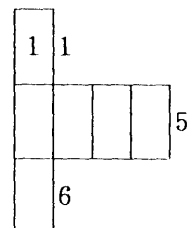
つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

- ・この調査は、日本看護協会各県支部を通じて「訪問看護を実施している」との情報が得られた病院を対象として実施しております。貴病院が訪問看護を実施していない場合も、問1～4までをご回答の上ご返送下さい。
- ・調査票は、実際に訪問看護を担当している看護職の方がご記入下さい。
- ・調査結果は統計的にとりまとめますので、個々の施設の回答内容が外部にもれて、ご迷惑をおかけすることはありません。
- 但し、本会に訪問看護についての問い合わせがよくありますので、この調査にもとづき下記の項目を掲載した訪問看護実施病院名簿を作成する予定です。そこで、この名簿への掲載をご了承いただける場合は、病院名及び住所をご記入下さい。
- ・ご記入下さったこの調査票は、平成3年2月10日までに、同封の返信用封筒にて切手をはらずに返送して下さい。

名簿掲載項目：病院名、設置主体、住所、電話番号、許可病床、訪問看護開始年、  
訪問看護担当部署、訪問看護従事者（専任、兼任の別）、訪問対象者数、  
電話相談体制、夜間・休日対応体制、医師往診体制

設置主体及び病院名	
住 所	〒
電話番号	

\*この欄には記入しないで下さい。



問い合わせ先：日本看護協会 03-3400-8331

調査研究室 …… 内線 230

訪問看護開発室 … 内線 281

問5以下は、該当する選択肢の番号に○を付けて下さい。( )の中はできるだけ、具体的に記入して下さい。特にことわりのない場合は、1991年1月現在の状況についてお答え下さい。

\*この欄には記入しないで下さい。

問1 貴病院の所在地は、( ) 都道府県

--	--

 8

問2 経営主体は、次のうちのどれですか。

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 1. 国立(大学病院を除く) | 2. 国立大学病院           |
| 3. 都道府県        | 4. 市町村              |
| 5. 日赤          | 6. 済生会ならびに北海道社会事業協会 |
| 7. 厚生連         | 8. 国民健康保険団体連合会      |
| 9. 社会保険関係団体    | 10. 公益法人            |
| 11. 医療法人       | 12. 学校法人            |
| 13. 会社         | 14. その他の法人          |
| 15. 個人         |                     |

--	--

 10

問3 許可病床数は、( ) 床

--	--	--	--

 14

問4 訪問看護を実施していますか。

(ここでは、医師往診時の同行訪問および健康な産褥婦と新生児を対象とする訪問は、訪問看護には含めません。)

1. 当病院所属の看護職が業務として(勤務時間内に、または残業扱いで)行っている
2. 何らかの訪問看護を行っている(ボランティアとして、特殊ケースのみ、試みとして、事例研究として、学生の教育実習の一環として、など)  
→ (具体的に: )
3. 訪問看護は、他の機関に依頼している  
→ (どこへ: )
4. 行っていない


 15  
16

→SQ 3年以内に、貴病院の職員が業務として行う訪問看護を開始する見込みはありますか。

1. ある                      2. ない

--	--

 17

以下の質問は、訪問看護を『貴病院所属の看護職が業務として行っている』施設のみお答え下さい。

問5 訪問看護開始年は、19( )年

\*この欄には記入しないで下さい。

問6 訪問看護担当部署は、次のうちのどれですか。( )に具体的に記入して下さい。

- |   |
|---|
| 1. 訪問看護を専門に行う独立した部署<br>(名称: )           |
| 2. 訪問看護・保健指導・療養相談等を行う部署<br>(名称: )       |
| 3. 外来( )科                               |
| 4. 病棟( )科                               |
| 5. 複数の部署の看護婦が参加する委員会、プロジェクトなど<br>(名称: ) |
| 6. その他( )                               |

19

1 20

2 21

3 22

4 23

5 24

6 25

→SQ1 訪問看護を行う日や時間を決めていますか。

- |        |
|--------|
| 1. はい  |
| 2. いいえ |

→SQ2 訪問看護にどれ位の時間をさいていますか。

週( )人日  
 [ 計算例: 週2日 半日、2人が訪問する場合  
 $2(日) \times 0.5 \times 2(人) = 2(人日)$  ]

26

28:人

問7 実際に訪問看護を行っている看護職は、病院全体で何人ですか。本年(1991年)1月以降に訪問した実績のある人数をお答え下さい。

	保健婦	助産婦	看護婦	准看護婦
訪問看護専任	人	人	人	人
保健指導・療養相談などの兼任	人	人	人	人
外来業務との兼任	人	人	人	人
病棟業務との兼任	人	人	人	人
その他の業務との兼任	人	人	人	人

29~68(秘)名

36

44

52

60

68

問8 現在貴病院で訪問看護を実施している看護職は、訪問看護に関する研修を受けていますか。

- |           |
|-----------|
| 1. 全員受けた  |
| 2. 一部受けた  |
| 3. 受けていない |

→SQ どこで、受けましたか。

- |       |           |
|-------|-----------|
| 1. 院内 | → ( )日    |
| 2. 院外 | → (場所と日数) |

69

70

72:日

73:場所

75:日数

以下訪問件数、人数は、健康な産褥婦と新生児を対象とする訪問は除いた人数を記入して下さい。

問9 訪問延件数は、

1989年4月～1990年3月	件
1990年4月～12月	件

\*この欄には記入しないで下さい。

					79
2	1				
					5

問10 1991年1月10日現在の訪問対象者数は、

	人
--	---

				8
--	--	--	--	---

その年齢別、性別のうちわけを記入して下さい。

	男	女
0～19歳	人	人
20～39歳	人	人
40～64歳	人	人
65～69歳	人	人
70～79歳	人	人
80歳以上	人	人

9～32(30)左表

12

16

20

24

28

32

問11 1990年4月～12月の間に訪問看護の対象となっていて、死亡した人は何人いましたか。死亡場所別にお答え下さい。該当者がいない場合は、0(0)と記入して下さい。

在宅で死亡	人
入院先で死亡	人
その他(老人ホームなど)で死亡	人

33～38(30)左表

34

36

38

問12 1991年1月10日の訪問対象者中、看護職が訪問先で下記の援助を行っているケースは何人いますか。1人の対象者が2つ以上の項目に該当する場合は、各々1人として計上して下さい。該当者がいない場合には、0(叩)と記入して下さい。

\*この欄には記入しないで下さい。

チューブ類や器具のチェック及び取扱についての指導を行っている	人	40
傷の手当てを行っている	人	42
食事療法の指導を行っている	人	44
定期的に注射を行っている	人	46
機能回復訓練の実施及び指導を行っている	人	48
ターミナルケアを行っている	人	50

39~50(20)歳

問13 1991年1月10日現在の訪問対象者中、下記の該当者は何人いますか。該当者がいない場合には、0(叩)と記入して下さい。

独居(同居の介護者がいない)	人
主たる介護者が65歳以上	人

51~54(20)歳

問14 訪問対象者選定の基準となっているものすべてに○を付けて下さい。また、そのうち最も優先度の高いものを3つまでとりあげ、下の欄にその番号を記入して下さい。

1. 特定の疾病(疾病名: )	<table border="1"> <tr> <td>1位</td> <td>2位</td> <td>3位</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	1位	2位	3位			
1位		2位	3位				
2. チューブ類や器具を装着しており観察や指導が必要							
3. 注射、傷の手当て、チューブ類の交換などの医療処置が必要							
4. 機能訓練が必要							
5. 病状が不安定であり、経過観察が必要							
6. 退院先の環境調節や退院後の生活適応のための援助が必要							
7. 病状悪化や入退院の繰り返し、療養生活に問題があるためと考えられる							
8. 入院中の療養態度などから退院後状態の悪化が予測される							
9. 訪問看護の支えがあれば、入院から在宅への切りかえが可能							
10. 本人や家族が退院後の療養生活に不安をもっている							
11. 本人や家族が終末を自宅で過ごすこと、あるいは早期退院を希望している							
12. 家族に介護知識や技術が不足							
13. 家族の介護力が弱体(独居、介護者が高齢など)							
14. その他( )							

52

54

1	55	8	62
2	56	9	63
3	57	10	64
4	58	11	65
5	59	12	66
6	60	13	67
7	61	14	68
			70:1位
			72:2位
			74:3位

問15 次のような対象者の訪問を依頼された場合、貴病院の訪問看護としては受けられないと思う番号に×印を付けて下さい。いくつでもかまいません。

\*この欄には記入しないで下さい。

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1. 介護を要するが、家族が（又は、家族だけでは）介護ができないケース         | 3 | 1 |
| 2. 症状が変動しやすく、病状観察のために週3回以上訪問する必要があるケース      | 1 | 2 |
| 3. 処置のために週3回以上訪問する必要があるケース                  | 2 | 3 |
| 4. 癌末期で痛みがあるケース                             | 3 | 4 |
| 5. 患者まで片道1時間以上要するケース                        | 4 | 5 |
| 6. 本人あるいは家族は退院を希望しているが、主治医は在宅療養は適さないと考えるケース | 5 | 6 |
| 7. 主治医と本人・家族の間に何らかのトラブルがあるケース               |   |   |
| 8. その他（ )                                   |   |   |

6	7
7	8
8	9

問16 訪問看護を依頼するのは誰ですか。該当するものすべてに○を付け、そのうち最も多いケースに◎を付けて下さい。

- |                                |    |    |    |    |
|--------------------------------|----|----|----|----|
| 1. 当院の主治医                      | 10 | 5  | 14 |    |
| 2. 当院の外来看護婦                    | 2  | 11 | 6  | 15 |
| 3. 当院の病棟看護婦                    | 3  | 12 | 7  | 16 |
| 4. 当院のケースワーカー                  | 4  | 13 | 8  | 17 |
| 5. 保健所・市町村の保健婦・看護婦→過去1年間に約（ )件 |    |    |    |    |
| 6. 福祉事務所や市町村の福祉関係者→過去1年間に約（ )件 |    |    |    |    |
| 7. 患者・家族                       |    |    |    |    |
| 8. その他（ )                      |    |    |    |    |

18:◎
------

問17 訪問対象を実質的に決める人は誰ですか。該当するものすべてに○を付けて下さい。また、そのうち主なもの1つに◎を付けて下さい。

- |                  |    |    |    |    |
|------------------|----|----|----|----|
| 1. 訪問看護婦         | 19 | 4  | 22 |    |
| 2. 主治医           | 2  | 20 | 5  | 23 |
| 3. 外来や病棟の婦長・主任など | 3  | 21 |    |    |
| 4. カンファレンスで決める   |    |    |    |    |
| 5. その他（ )        |    |    |    |    |

24:◎
------

→SQ 参加する職種すべてに○を付けて下さい。

- |                |    |    |    |    |
|----------------|----|----|----|----|
| 1. 医師          | 25 | 3  | 27 |    |
| 2. 看護婦         | 2  | 26 | 4  | 28 |
| 3. 医療ソーシャルワーカー |    |    |    |    |
| 4. その他（ )      |    |    |    |    |

--	--



問18 貴病院の訪問看護では、次のような内容の援助を行いますか。該当するものすべてに○を付けて下さい。

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 食事、排泄、入浴、清拭、着衣などに関する直接的、具体的な看護の提供  |
| 2. 食事、排泄、入浴、清拭、着衣などに関する家族への介護指導       |
| 3. 看護・介護用品の工夫・紹介・支給                   |
| 4. 自助具の紹介や家屋改造の助言                     |
| 5. コミュニケーションをスムーズにするための工夫・助言          |
| 6. 精神症状・異常行動がある場合の対応方法の指導             |
| 7. 機能回復訓練の実施及び指導                      |
| 8. 食事内容のチェックと食事指導                     |
| 9. 新生児・乳幼児の育児指導                       |
| 10. 服薬のチェックと指導                        |
| 11. 血糖測定、検尿、聴診などによる病状観察               |
| 12. 病状の説明と病状観察の仕方の説明                  |
| 13. 注射、傷の手当て、吸引、吸入、検体採取などの医療的処置の実践と指導 |
| 14. 医師のかかり方の助言                        |
| 15. 学校・職場復帰のための指導及び関係者との調整            |
| 16. 家族間の諸問題に関する相談・助言                  |
| 17. 家族の健康管理                           |
| 18. 社会資源の導入に関する助言及び連絡                 |
| 19. その他（ ）                            |

\*この欄には記入しないで下さい。

1	29	10	38
2	30	11	39
3	31	12	40
4	32	13	41
5	33	14	42
6	34	15	43
7	35	16	44
8	36	17	45
9	37	18	46
	38	19	47

問19 訪問看護婦は、訪問先で次のような医療処置を行いますか。

	1. している	2. 該当者がいないが必要があれば行うつもり	3. しない
膀胱洗浄	1	2	3
導尿	1	2	3
留置カテーテルの交換	1	2	3
気管カニューレの交換	1	2	3
経管栄養チューブの交換	1	2	3
点滴注射	1	2	3
褥瘡の壊死組織の切除	1	2	3

48
49
50
51
52
53
54



問24 夜間、休日、時間外に訪問対象者の方からの連絡を受けて対応できる体制が作られていますか。

1. はい  
2. いいえ

→S Q 1 どのような体制を作っていますか。

( )

→S Q 2 夜間、休日にも訪問を行うことがありますか。

1. はい  
2. いいえ

→S Q 3 1990年12月、1カ月の夜間、休日訪問件数は、この期間になかった場合は、0(抑)と記入して下さい。

( ) 件

\*この欄には記入しないで下さい。

66  
67  
68

70

問25 保健所や市町村との連携が行われていますか。該当するものすべてに○を付けて下さい。

1. 保健婦や看護婦から訪問依頼を受ける  
2. 福祉関係者から訪問依頼を受ける  
3. 訪問を依頼する  
4. 引継ぎのための同行訪問をする  
5. 他職種の同行訪問の依頼を受ける  
6. 衛生材料・器材の消毒・提供などの協力をする  
7. 社会資源の利用について福祉関係者に連絡し協力を求める  
8. その他の連携をとっている ( )  
9. 特に連携はとっていない

→S Q 貴病院から同行訪問する職種は。該当するものすべてに○を付けて下さい。

1. 医師 2. PT 3. OT 4. ST 5. その他( )

1 71 6 76  
2 72 7 77  
3 73 8 78  
4 74 9 79  
5 75

4 1 3 4  
1 2 4 5  
2 3 5 6

問26 訪問対象者の医師受診はどのようになされていますか。該当するものすべてに○を付け、そのうち最も多いケースに◎を付けて下さい。

1. 当院の医師が往診  
2. 当院の外来に通院  
3. 当院への外来通院と近医での受診(通院・往診など)が併行  
4. 近医(当院外)で受診、当院では受診していない  
5. 1ヵ月以上往診も通院もなされていないが、訪問看護婦が当院の医師と連絡をとっている

1 7 4 10  
2 8 5 11  
3 9  
12:◎

問27 社会保険及び老人保健の訪問看護・指導料の請求件数についてお聞きします。  
 社会保険：在宅患者訪問看護指導料、精神科訪問看護・指導料および  
 老人保健：寝たきり老人訪問看護・指導料、退院患者継続訪問指導料、  
 退院前訪問指導料を合計して下さい。

\*この欄には記入しないで下さい。

1989年4月～1990年3月	件
1990年4月～12月	件

				16
				20

問28 1991年1月10日現在の訪問対象者中、次の診療報酬項目に該当し、料金を請求しているケースは何人おりますか。1人の患者で複数の項目を請求している場合、各々1人として記入して下さい。該当者がいない場合には、0(〇)と記入して下さい。

21～37(各〇)表

社会保険	在宅患者訪問診療料	人	22
	在宅自己注射指導管理料	人	24
	在宅自己腹膜灌流指導管理料	人	26
	在宅酸素療法指導管理料	人	28
	在宅中心静脈栄養法指導管理料	人	30
	在宅経管栄養法指導管理料	人	32
	在宅自己導尿指導管理料	人	34
	在宅人工呼吸指導管理料	人	36
	在宅悪性腫瘍患者指導管理料	人	38
	在宅寝たきり患者処置指導管理料	人	40
	特定在宅療養用器材料	人	42
老人保健	痴呆患者在宅療養指導料	人	44
	寝たきり老人訪問診療料	人	46
	寝たきり老人訪問指導管理料	人	48
	在宅自己注射指導管理料	人	50
	在宅自己腹膜灌流指導管理料	人	52
	在宅酸素療法指導管理料	人	54
	在宅中心静脈栄養法指導管理料	人	56
	在宅経管栄養法指導管理料	人	58
	在宅自己導尿指導管理料	人	60
	在宅人工呼吸指導管理料	人	62
	在宅悪性腫瘍患者指導管理料	人	64
	寝たきり老人訪問理学療法指導管理料	人	66
	寝たきり老人処置指導管理料	人	68
	特定在宅療養用器材料	人	70

問29 保険請求できない衛生材料や器材はどのようにしていますか。物により一様でない場合は、該当するものすべてに○を付けて下さい。また、( )には、物品名を具体的に記入して下さい。

- |                        |
|------------------------|
| 1. 患家で用意してもらう ( )      |
| 2. 病院で用意し、患家に実費を請求 ( ) |
| 3. 病院で用意し、無償で提供 ( )    |
| 4. その他 ( )             |

\*この欄には記入しないで下さい。

1	71
2	72
3	73
4	74

問30 訪問に要した交通費は、患家に請求していますか。

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. 全員に請求          | → S Q 1 請求額は、 |
| 2. 請求する人としらない人がある |               |
| 3. いっさい請求していない    |               |
- |             |
|-------------|
| 1. 実費全額     |
| 2. 実費の一部    |
| 3. 定額 ( ) 円 |

75
76

→ S Q 2 請求をしない場合の交通費負担はどうしていますか。該当するものすべてに○を付けて下さい。

- |                      |
|----------------------|
| 1. 徒歩、自転車などを使用し交通費不要 |
| 2. 病院の車を使っている        |
| 3. 病院が交通費を負担する       |
| 4. 看護婦の私用車を使っている     |
| 5. その他 ( )           |

5	1
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6

問31 有料の訪問看護を実施していますか。

(保険扱いの場合の自己負担分、交通費及び衛生材料、器材の実費請求を除く)

- |        |                           |
|--------|---------------------------|
| 1. はい  | → S Q 1 回の料金及び対象者などを具体的に。 |
| 2. いいえ |                           |
- ( )

7
9

問32 社会保険診療法報酬及び患家への料金請求以外に、訪問看護実施による収入がありますか。

- |                      |
|----------------------|
| 1. 市町村からの委託費をもらっている  |
| 2. その他の収入がある (具体的に ) |
| 3. 一切ない              |

検査者

10
----

問33 訪問看護をする上で、どんな問題を感じていますか、あるいは困っていますか。該当するものすべてに○を付けて下さい。

\*この欄には記入しないで下さい。

1. 訪問看護の組織的な位置づけが不明確で、連携・連絡がとりにくい
2. 院内で訪問看護への理解・協力が得にくい
3. 院内の医師往診体制がないので、対象者をふやせない
4. 人手不足で対象者や訪問の頻度を増やせない
5. 他の業務と兼務なので訪問日を調整するのが大変
6. 他の業務と兼務なので訪問日が増えれば他の業務に支障をきたす、あるいは他のスタッフに気がねする
7. 採算がとれないので、専任体制がとれない
8. 地域の保健医療関係者と具体的な話し合いをする機会がもてず、連携が深まらない
9. 地域の訪問看護に引き継ぎたいが、なかなか受け止めてもらえない
10. 独居、介護者の高齢化など、家庭の介護力が乏しく、訪問看護だけでは支え切れないケースが多い
11. 訪問看護を家庭に受け入れてもらうのに困難を感じるケースが多い
12. ケースへの対応について、誰かに相談したいことがよくあるが、相談する人がいない
13. 訪問看護についての教育を受けていないので、自信がもてない

訪問看護をするうえで、上の1～13以外の問題点や困っていることについて、下の余白に何でもご自由にご記入下さい。

1	11
2	12
3	13
4	14
5	15
6	16
7	17
8	18
9	19
10	20
11	21
12	22
13	23

24
----

—長い間、ご協力ありがとうございました—